

作成番号:0251

=====

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

=====

号数:2025-251

内容:糖尿病治療薬 SGLT2 阻害薬や DPP-4 阻害薬はがん発症リスクを減らせるか？

出典:Association of SGLT2 inhibitors with incident cancer.

Diabetes & metabolism. 2024 Nov;50(6);101585.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39455021/>

SGLT2(エス・ジー・エル・ティー・ツー)阻害薬は尿に糖を出すことで血糖を下げる飲み薬で、体重減少の目的に頻用されている。近年、SGLT2 阻害薬は実験レベルでさまざまながん種に対する抗腫瘍効果が示唆されている。今回、東京大学/国立保健医療科学院の研究者らが全国規模の疫学データベースを用いて、SGLT2 阻害薬または DPP-4 阻害薬を処方された患者におけるがん発症率を調べ、Diabetes & Metabolism 誌 2024 年 11 月号に報告した。

大規模疫学データベースにおいて、新規で SGLT2 阻害薬または食事時に膵臓からのインスリン分泌などを調整して血糖を下げる DPP-4 阻害薬を処方された糖尿病患者を解析した。主要評価項目はがん発生率とし、SGLT2 阻害薬群と DPP-4 阻害薬群におけるがん発症率を比較した。26,823 例を 1:2(SGLT2 阻害薬群 8,941 例、DPP-4 阻害薬群 17,882 例)に傾向スコアマッチングした。平均追跡期間 2.0±1.6 年の間に 1,076 例ががんを発症した。SGLT2 阻害薬投与はがんリスク低下と関連し(ハザード比[HR]:0.80、95%信頼区間[CI]:0.70～0.91)、とくに大腸がんリスクの低下と関連していた(HR:0.71、95%CI:0.50～0.998)。がん発症リスクはそれぞれの SGLT2 阻害薬で同程度であった。

糖尿病患者におけるがん発症抑制においては DPP-4 阻害薬より SGLT2 阻害薬のほうが有利である可能性が示された。

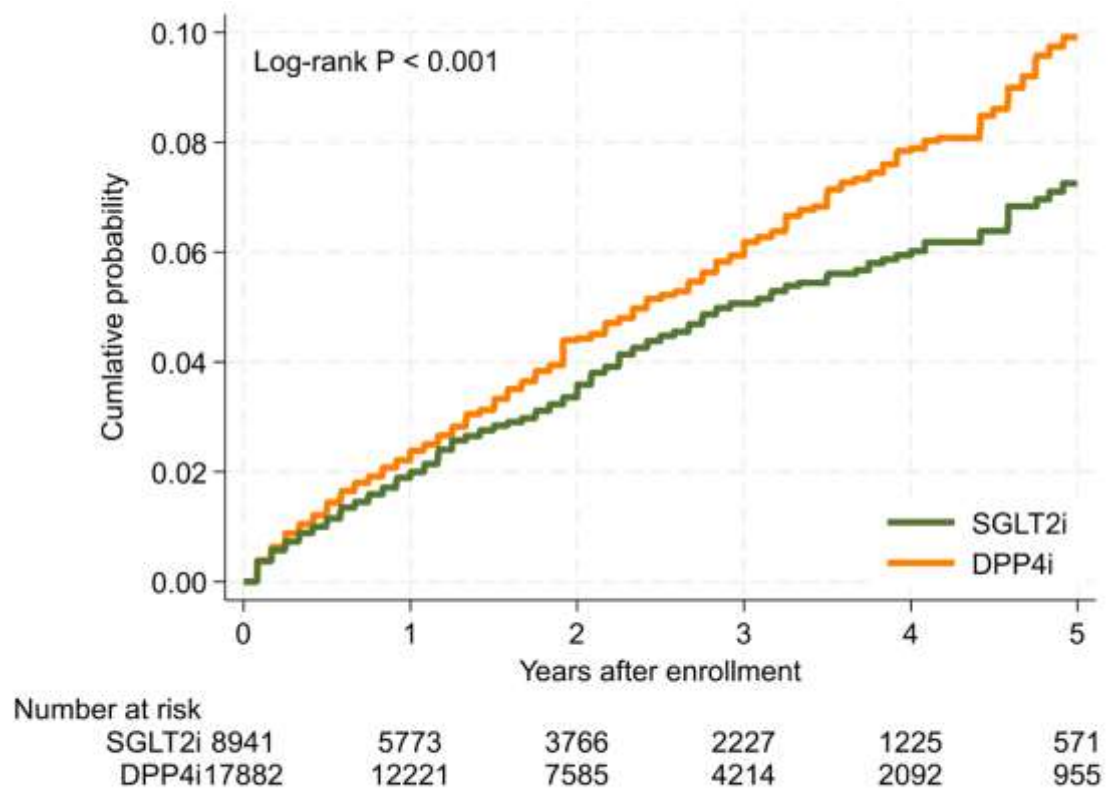


Fig. 1. Kaplan-Meier Curves.
Kaplan-Meier curves for total cancer.